

テーマ

「生活委員会情報通信機器実態調査から、自分の生活を見直そう」

実施主体：青森県南津軽群田舎館村立田舎館中学校生徒会 生活委員会

協力団体：青森県南津軽群田舎館中学校生徒指導部

《取組の概要》

今年度行われた保護者参観日での情報モラル講習会に向けて、生徒会の生活委員会が情報通信機器の全校生徒所持率と実施状況を調べた。その結果を基に自分の生活に情報通信機器が本当に必要なのかどうか、どのように利用していけばよいか、グループごとに考える活動を行った。

1 本事業に取り組んだ理由(課題を含めて)

本校はSNS等での大きなトラブルは今まで無かったが、それでもいじめアンケートにはLINEで悪口を書かれた等の訴えや、教師との雑談を通して「迷惑メールが来た」、「LINEで知らない人からメッセージが届いた」等の問題があったことが分かった。

それらを受けて、生徒会の生活委員会で話題にしたところ、本校生徒が実際どれくらい情報通信機器を所持しているのか、何に利用しているのか調べてみようという声が生徒から挙がり、生活委員会の活動として調査をしようということになった。その後、生徒指導部が中心となり、それらの機器が自分にとって必要なのかどうか話し合いをさせ、今後どのように利用していけばよいかを考えさせた。

2 実施スケジュール

- 10月下旬 生徒会生活委員会が情報通信機器の所持・利用についての調査実施。
- 11月上旬 保護者日曜参観日において株式会社グリーの担当者を招き、全校生徒・保護者対象の情報モラル講習会実施。
生徒集会において生活委員会が調査結果発表。
- 1月中旬～2月 調査結果を受けて、各学級においてグループごとの話し合い。



3 事業展開

5月、10月のいじめアンケートにおいて、悪口を書かれた等のネット上でのトラブルがあったという生徒が数名いたことが分かった。昨年度から11月の保護者日曜参観日において情報モラル講習会を行っている。今年度は株式会社グリーの担当者をお願いして、実施することとなった。それらのことから、講習会前に本校生徒の情報通信機器の所持率、利用方法の実態を生徒自身が把握することによって、今後の利用方法や利用に当たっての注意点を深く考えるきっかけになればと思い、情報通信機器に関する調査を行った。

その結果、携帯、スマホ、音楽機器、ゲーム機、PC等、何らかの情報通信機器の所持率は全校生徒の96%に及んだ。また利用方法については、ゲーム、YouTube、音楽、LINE、メールがほとんどであった。1日の利用時間は生徒の40%以上が2時間以上しているという結果になった。いじめアンケートから分かったようなトラブルだけではなく、迷惑メールや詐欺メールが来て困った等の意見もあった。それだけではなく、夜遅くまでLINEをして勉強がおろそかになった、授業中居眠りをしてしまう生徒もいることが明らかになった。

このような実態を生活委員会が全校集会で発表し、全校生徒に注意を促したが、より自分の問題として捉えてもらうために生徒指導部が中心となって、各学級の学活を利用し、自分たちにとってメールや電話、SNSやゲーム、動画視聴は必要なのか、中学生として情報通信機器とどのように付き合っていけばよいか等を考えさせるために生活班ごとの話し合い活動を行った。

4 事業の成果(効果)

- ・情報モラル講習会の前に、調査や結果報告を行ったため、講習会当日は、生徒は真剣に講師の話に耳を傾けていた。講習会後のいじめアンケートではネット上のトラブルを申し出た生徒は1人もいなかった。
- ・生徒と保護者が一緒に情報モラル講習会を行ったことによって、保護者の子どもの通信機器利用への関心が高まり、家庭内で子どものSNSへの関わり方に今まで以上に注意を払うようになった。
- ・各学級での話し合いのためのワークシートを生徒指導部側から準備した。ワークシートを使用することによって自分の生活における情報通信機器の必要性を振り返り、グループごとに話し合いをすることによって、自分自身の情報通信機器の利用の仕方を見つめ直すきっかけになったと思われる。
- ・使用頻度や使用時間等、他の人の意見を参考にできたという生徒が見られた。

5 事業を成功させるためのポイント

- ・情報モラル講習会に合わせて調査を実施することが、講習会に対する生徒の関心を高める。
- ・情報通信機器の利用について、ワークシートを使いながら自分の生活を振り返り、仲間と話し合ったことが、より真剣に自分の生活を見直すきっかけになる。
- ・学級におけるグループ毎の話し合いを普段の授業において使用している小集団(基本4人)で行わせることが、生徒の意見・考えを発表しやすくする。

6 今後の展開(継続・発展させていくために)

- ・情報モラル講習会は毎年継続して実施していく。その事前指導になるように情報通信機器の実態調査を生活委員会の活動計画に位置づけ、今後も継続していく。
- ・生徒会執行部が中心となって、生徒の意見・考えを生かしながら、いじめ防止活動の一環としてさらに充実させていきたい。
- ・参観日等の学級活動で取り上げ、保護者にも生徒の生の声を聞いてもらう機会を設けることによって、家庭との連携につなげていきたい。

